

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第1回理事会 開催日：3月22日。出席者：佐野会長
他 33 名。
会議事項

1. 「原子炉用鋼材の耐照射性に関する研究」に昭和42年度原子力平和利用研究費補助金交付申請の件交付申請を行なうことに決定。
2. 材料試験用原子炉利用委員会(仮称)設置の件
昭和43年10月より約1年間材料試験用原子炉の試用期間がありその間各種の炉特性測定試験および照射試験のための準備試験が計画されており、鉄鋼材料(含ステンレス鋼管)の照射試験も無償で行なうことができる。日本原子力研究所より本協会に対し鉄鋼材料の照射試験計画の立案準備を委託されたのでこの事業を協会内に新委員会を設置して行なうことを決定した。
3. たたら製鉄法復元計画委員会設置の件
たたら製鉄法復元計画立案のために委員会を設置することを決定。
4. 試験高炉第18次操業試験について
18次試験は装入物の粒度と送風限界との関係を調査するもので装入物の粒度を細粒化し、送風限界を明かにする試験計画を承認。
5. 装入炭層密度測定試験について
国内炭活用製鉄用コークス製造試験用として設置した高密度測定装置を活用してコークス炉装入炭の粒度および湿分と装入密度の相関々係の究明を試験題目とする研究を行うことを決定。この研究によりコークス炉の生産能力の向上に資することができる。

第2回理事会 開催日：4月25日。出席者：佐野会長
他 39 名。
会議事項

1. 理事職務分掌決定の件
次の通り決定した。
会 長 佐野幸吉理事
副会長 武田喜三, 橋口隆吉各理事
専務理事 田畑新太郎理事
庶務担当 今富政平, 木下 亨, 中司正夫各理事
会計担当 河西健一, 手島雄二, 三井太祐各理事
企画担当 内川悟, 田村純治郎各理事(企画委員会のみ) 近藤八三, 中野宏, 久田清明, 安田洋一, 吉崎鴻造各理事
編集担当 阿部秀夫, 長谷川正義, 不破祐, 森田志郎, 八木貞之助, 安田洋一(企画と兼務) 吉井周雄各理事
研究担当 足立彰, 小野健二, 河田和美, 三本木貢治, 菅野五郎, 田中実, 吉田浩各理事
2. 共同研究会条鋼部会長および中小形分科会主査の解嘱および委嘱の件

条鋼部会長 浅田幸吉君(神戸製鋼取締役加古川臨時建設本部長)を解嘱し、高橋孝吉君(神戸製鋼取締役神戸工場長)を委嘱する。

- 中小形分科会主査 涌島滋君(神戸製鋼臨時建設本部主任部員)を解嘱し、中西啓一君(神戸製鋼尼崎工場主任部長兼技術部長)を委嘱することを決定。
3. 編集委員長, 企画委員長, 研究委員長委嘱の件
編集委員長 荒木透君(編集担当常務委員)
企画委員長 吉崎鴻造君(企画担当理事)
研究委員長 三本木貢治君(研究担当理事)
以上3名の委嘱を決定。
 4. 企画委員, 研究委員, 委嘱の件
企画委員 藤井行雄君(日本鋼管)
研究委員 館充君(東京大学)
下川敬治君(八幡製鉄)
下田秀夫君(日本製鋼所)
以上4名の委嘱を決定。

企 画 委 員 会

第1回委員会 開催日：3月17日。出席者：伊木委員長
他 19 名。
会議事項

1. 日本工学会次期会長候補者推薦および同理事学会(第2部門)選挙の件
次期会長候補には東大工学部の吉識教授を、理事学会には鑄物協会を推薦することを決定。
2. 東洋レーヨン, 科学技術賞および研究助成金受領者決定の件
本会推薦の「鉄鋼における窒素の役割に関する研究」の今井勇之進東北大学教授が助成金受領者に決定した旨報告があつた。
3. 金属の物理的性質講演会協賛の件
主催 日本物理学会 協賛予定 応物, 表面技術, 化学, 金属, 原子力各学協会 期日 42年7月18日~21日 場所 科学技術館
協賛に決定。
4. 67 セラミックスフェア後援名義使用許可の件
主催: 窯業協会, 日本工業新聞社
後援: 関係官庁, 学会, 新聞, 民間放送
出品物範囲: 窯業全般の原料, 製品
会場: 東京国際貿易センター
会期: 42年9月7日~13日
名義使用許可に決定。

第2回委員会 開催日：4月18日。出席者：吉崎理事
他 12 名。
会議事項

1. 第13回大河内賞受賞者決定報告
川崎製鉄千葉製鉄所「純酸素転炉の生産性向上」大河内生産賞を受賞した旨報告。
2. 第74回講演大会について
秋季講演大会は10月1日より5日まで、北海道大

学で開催される。

3. 日本工学会次期理事学会決定報告
第2部門で本協会が理事学会に決定。
4. 鋼構造新規準備講習会後援の件
主催：日本建築学会
開催地および会期：東京6月29, 30日
その他各地 後援に決定。
5. 第2回機械振興協会賞受賞候補者推薦の件
2件推薦があつたが、関係資料不足のため審議未了。

研究委員会

第1回委員会 開催日：3月22日。出席者：今井委員長他20名。
会議事項

1. 東大1t高炉第18次操業計画について
試験高炉委員会より、提出資料に基づき説明があり了承された。
2. 基礎共同研究会の昭和42年度予算について
各部会、グループの次年度予算につき、説明があり了承された。
3. リムド鋼分科会研究体制について
昭和42年度研究計画に関する担当委員打合せ会の議事内容が説明され、承認された。
4. タタラ製鉄法復元計画委員会の設置について
文部省の文化財保護委員会の行事として新しく、鉄鋼協会内に標記委員会を設置する案が説明され、討議された。
5. 第4次照射試験研究について
提出資料に基づき、説明があり承認された。
6. 材料試験炉利用委員会設置について
提出資料に基づき、説明があり承認された。

第2回委員会 開催日：4月25日。出席者：今井前委員長，他14名。
会議事項

1. 研究委員会構成について
本年4月をもって、一部の理事、常務委員、研究委員が任期満了となるので、それに伴い研究委員会の新委員構成につき検討された。
2. 第10回技術講座について
前回提出された第10回技術講座(8月予定)の企画案中一部変更があつたので討議された。
3. 昭和43年度通産省補助金事業における鉄鋼協会からの申請について
例年7月頃、次年度の補助金申請について通産省のhearingがあるので、その準備の意味で問題提起され、微量元素部会およびクリーブ委員会より、申請の意向が説明された。
4. 教育について
佐野会長より先に開かれた。金属学会の「教育に関する専門委員会設置に関する検討会」の様子が報告され、今後の進め方が討議された。

編集委員会

第2回編集運営委員会 開催日：5月23日。出席者：荒木透委員長，他16名。
会議事項

1. 編集委員委嘱について
欧文誌分科会担当委員に次の3氏を委嘱することになった。
後藤和弘君(東京工業大学金属工学科)
細井祐三君(八幡製鉄(株)東京研究所)
山崎道夫君(金属材料技術研究所)
2. 会誌投稿規程について
和文会誌分科会における投稿規程の検討結果を委員長より報告があり、審議した。
特に自由投稿論文の原稿枚数の制限に問題があるとし、次回までに決定することになった。

第2回和文会誌分科会 開催日：4月28日。出席者：荒木主査，他19名。
会議事項

1. 論文審査報告
2. 8月号(9号)掲載論文決定
3. 依頼論文について
第73回講演大会講演論文中より9件を論文として寄稿依頼することに決定。
4. 会誌のあり方について
会誌の発展、会員の増員には設備技術など、現場的な記事を増すべきであるが、現状としてはアカデミックな記事にかたよっている。協会会員層からみて、現場的な記事を望んでいる人が多く、現場的な技術、プロセスに直結した研究、資料記事をふやす必要がある。また共研から記事を導入することも必要である。等々の意見があり、小委員会を設けるまでもないが、これらの意見を反映すべき手段を考慮することになった。

第3回和文会誌分科会 開催日：5月19日。出席者：荒木主査，他16名。
会議事項

1. 第73回講演大会第2種講演事後論文の投稿は61件
2. 第73回講演事後論文審査について
原則として座長を務めていただいた方に審査をお願いする。審査は講演論文規程に準じて行なう。
3. 今後 Trans ISIJ の synopsis (和文)を「鉄と鋼」に掲載する。
4. 論文寄稿規程について
事務局原案を検討の結果、次回さらに審議することに決定。

第2回欧文会誌分科会 開催日：4月24日。出席者：橋口主査，他14名。
会議事項

1. 審議の結果、原稿審査報告書の「原稿の分類」は Review, Reasearch Article, Research Notes, Technical Survey, Report, Technical features と決定した。この分類は Transactions の目次、柱にも適用される。上で新しい原稿審査報告書の内容はすべて決定した。
2. Transactions では論文の掲載順序に関して特別に決まりを設けない。

3. 英文の寄稿規程の案が提出され、審議されたが、次回にもう一度検討することとなった。

その他、論文の審査報告、依頼論文推薦がなされた。

第3回欧文会誌分科会 開催日：5月22日。出席者：橋口主査，他 18 名。

会議事項

1. Transactions の外国寄贈先のうち先方と交換できるもの、寄贈すべきものを除いては、会員に勧誘することになった。

2. 英文の寄稿規程は概要が決まり、次回さらに検討する。

3. Transactions 講評

「講演題目」記事は表題、脚注その他の表現につき大幅に改良された。

4. Transactions の購読者を増やすため、「Transactions」, 「鉄と鋼」, などの寄稿者に購読勧誘状をだすことになった。

その他、依頼論文推薦がなされた。

第2回講演大会分科会 開催日：5月12日。出席者：草川主査，他 23 名。

会議事項

1. 第74回講演大会特別講演について

1) 青函連絡トンネル工事について(仮題)

2) 他1件については北海道支部に講演テーマおよび講師の選定を任せる。

2. 第75回講演大会討論会テーマについて討論会に関しては座長の意見を尊重し、ある程度テーマも座長に任せる方針とする。討論会テーマには下記の候補が上げられた。

製鉄 座長 東北大選研 三本木貢治君
テーマ “燃焼鋳とペレットとの対比”

製鋼1)座長 名大工 佐野 幸吉君
テーマ “製鋼反応の動力学”

2)座長 大同製鋼 中野 邦弘君
テーマ “真空脱ガス”

加工1)座長 東大工 五弓 勇雄君
テーマ “塑性加工した鋼の集合組織”

性質1)座長 東北大金研 今井勇之進君
テーマ “鋼におよぼす窒素の影響”

あるいは
“鋼の歪時効”

2)座長 電通大 作井 誠太君
テーマ “鋼の脆性”

鉄鋼の格子欠陥

座長 東大工 橋口 隆吉君

資料委員会

第41回委員会 開催日：4月28日。出席者：草川委員長，他 12 名。

会議事項

1. 資料室だより(案)の検討について

外国雑誌リスト(7月号掲載)について内容の統一

を行なった。

2. 見計らい図書の見直しについて

次の3点について購入することになった。

(1) Process Simulation and Control on Iron and Steel

(2) Elesevie's Dictionary of Metallurgy

(3) An Introduction to Stainless Steel

3. 鉄連発行の“資料室月報”掲載案の検討について

(1) 紹介文に追加する事項として、簡単明瞭にするため文字、記号などを表わす説明文を付けることになった。

(2) 資料 No. 404の3(鉄鋼協会入手資料)を鉄鋼関係主要論文大学公立研究所に限ると改題した。

4. 「鉄と鋼」索引カード化について

(1) ABTICS の 379 分類中 101 の大項目をチェックし、それによつて分類し、その結果 Trouble の起こつた時点で次の Step を考えていくことにし、過去3カ年間の論文をカード化することに決定。

(2) ABTICS 以外の分類方法があればその具体案について、次回まで考えてくることに決定。

(3) ABTICS の翻訳について次回再検討することに決定。

共同研究会

製鉄部会

第30回部会 開催日：3月16~18日。出席者：林部会長，他 140 名。

会議事項

講演

1. 堺第1高炉における操業実績について
八幡製鉄(株)堺製鉄所 林 洋一

2. 製鉄設備の概要とその稼動について
日本鋼管(株)福山製鉄所 樋口 正昭

共通議題

1. 高炉々体煉瓦および熱風炉煉瓦の乾燥について

2. 粘性鋳石の使用について
その他
福山製鉄所製鉄設備見学

品質管理部会

第17回部会 開催日：4月13, 14日。出席者：辻畑部会長，他 64 名。

会議事項

日新製鋼製鉄所において第17回部会が開催されたが、QCサークル運動、ZD運動の全国的拡りを反映してか「QC意識とその徹底」のサブタイトルの下に熱心な討論発表が行なわれた。QCサークル活動の評価その報償法、活動範囲などが主なる論点であった。また標準化と品質設計のサブタイトルの下では標準体系の纏めと制定箇所の検討、受注と品質設計の関係について論議された。なおQC概念について事務部門への応用も提案さ

れ今後ますます広範囲 Total QC が採用されていくだろうとのことであつた。なお見学は、呉製鉄所熱延工場を主として行なわれた。

調査部会

第20回部会 開催日：3月23, 24日。出席者：木寺部会長，他46名。

会議事項

第20回部会では「成品輸送」問題のスタートとして成品輸送管理の組織と機能，輸送形態別出荷比率，月間出荷波動状況などについて成品輸送基礎調査を行なつた結果を発表し各社に内在している成品輸送上の種々な問題点を摘出し討議を行なつた。

次に「成品輸送基礎調査」に続くテーマとして製品の構内輸送工程調査を採り上げることを決定し，「構内出荷」「輸送ハンドリング」ならびに「レイアウト」などを中心に各製鉄所の比較検討を行なうための調査様式を討議した。

また輸送問題の今後の研究の進め方について各社の委員の意見を発表してもらつたが次回はそれら意見を尊重して従来のテーマの発展の他，輸送問題のトピックについて講演を行なう予定である。

鉄鋼分析部会

発光分光分析分科会

第10回分科会 開催日：5月12日。出席者：杉山主査他32名。

会議事項

1. ステンレス鋼共同実験集計結果について討議を行なつた。

鋼種別分類が不十分であるのでこれをただちにJISに組入れて許容誤差を決定するには問題がある。またパラッキも現在各社独自で行なつている分析よりも大きく出ているなどの話が行なわれJIS組入の必要があれば別途検討することになつた。

2. 微量元素分析について各社のアンケートを集約した。各社とも大略同一の意見をもっていることが特に注目された。

3. 自由発表

日鋼室蘭，東海製鉄から資料提出がありディスカッションが行なわれた。

4. 分光分析分科会の今後の進むべき方針について話合もたれた。結論として今までの分科会の活動を整理する意味でJIS改訂にとりかかりその途上問題があれば皆でその問題に取りくむことになつた。

鉄鋼生産設備能力調査委員会

鋼管部会

第3回部会 開催日：4月4日。出席者：山田主査代理，他17名。

会議事項

1. 溶接管分科会（高周波溶接）

(1) 代表サイズの見直しを行なつた。
(2) 作業率の見直しを行なつた。
(3) ヒート係数式の検討をしたが結論が得られず次回にもう一度検討することになつた。

2. 継目無分科会（マンネスマン）

スリップ代，パス回数，ロッド因子，難易度，管材加熱炉算定式，管切歩留，管切歩留の見直しを行ない諸係数および算定式を決定した。

第4回部会 開催日：5月9日。出席者：山田主査代理，他16名。

会議事項

1. 溶接管分科会（高周波溶接）

(1) 品種係数の見直し
能率，歩留，作業率を決定した
(2) ヒート係数式を決定するに必要なデータを取るための様式を決定した。
(3) 次回簡略式の案を各社より提出することになつた。

2. 継目無分科会（マンネスマン関係）

今回ではほぼ完了したので次回より簡略式を検討することになつた。

試験高炉委員会

第10回委員会 開催日：3月13日。出席者：辻畑委員長，他14名。

会議事項

1. 第18次操業，試験計画について

装入物（焼結鉄，コークス）の細粒化を行なつて，送風限界を追求する試験計画を承認した。4月の鉄連鉄部会で承認されれば今夏，操業実施の運びとなる。

2. 東大生研試験高炉第16次操業の解析について鋼管技研下間から高炉に内の通気性について発表が行なわれた。各社に試験高炉の化学工学的検討結果の発表を依頼した。

標準化委員会

第7回委員会 開催日：3月23日。出席者：作井委員長，他24名。

会議事項

1. 今年度原案分析会で作成した下記のJIS原案を審議し承認した。

(1) 高圧ガス容器用鋼板，(2) 圧力容器用鋼板，(3) 機械構造用マンガン鋼鋼材，(4) 焼入性を保証した構造用鋼材追加改正案，(5) 熱間圧延炭素鋼鋼帯（電線管など）配管用鋼管（8規格），(6) 金属材料衝撃試験片，(7) 金属材料衝撃試験法，(8) 金属材料引張試験片，(9) 金属材料引張試験法

2. 今年度の活動状況報告

(1) 機械用鉄鋼規格調査，(2) 鉄鋼規格便覧，(3) JIS鋼材規格講習会，(4) 各分科会の活動状況

3. 42年度の事業予定

JIS原案10規格を作成することになつた。

第1回耐条性鋼板工業標準原案作成分科会

開催日: 12月8日. 出席者: 荒木委員長, 他 27 名.

会議事項

工技院より「耐候性鋼板」工業標準原案の作成を委託されたので当会内に首記分科会を設置し原案を作成した.

1. 規格名称
溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材
2. 適用範囲
橋, 建築などに用いられる溶接性を考慮した耐候性鋼材
3. 種類
41キロ, 50キロ, 58キロ
4. 化学成分
炭素当量は, 規定しない.

なお, 上記原案作成のため4回の分科会と3回のメーカ打合せを行なった.

また, 耐候性試験方法の早急な確立が要望された.

第12回鋼管分科会 開催日: 4月5日. 出席者: 桑原主査, 他 17 名.

会議事項

JIS 熱伝達用鋼管の改正期をむかえ, 当分科会で要改正と考える点を以下のように決定した. 具体案は次回検討することになった.

1. 配管用鋼管の改正にともない, 改正が必要となる点
2. 標準寸法の見直し
3. SUSTB にHグレードを追加する. またこれにともない熱処理方法を見直す.
4. STB 3, 4 粒に Si の下限のないものを追加する.
5. STB はつば出し試験をなくし, すべて押しひろげ試験とする.

石炭成型法委員会

第3回委員会 開催日: 3月14日. 出席者: 久田委員長, 他 16 名.

会議事項

1. 設備処分打合せ会議について報告
2. 装入炭嵩密度測定試験計画
前回提案された鉄板オンドル法は実施上問題があるためとりやめて八幡現地の京陳煉炭(株)に石炭乾燥を請負わせることになった. 円滑な試験計画実施のために八幡現地に装入炭嵩密度試験計画実施委員会を置き, 大巾に権限を移譲することになった. 在京の幹事からなる共同研究準備小委員会は試験計画小委員会と改称し試験計画に協力することになった.
3. 試験計画費用
昭和42年2月末, 国内炭活用会計残余金

3,875,213円の内 2,000,000 円を充当する.

4. 試験計画時期

梅雨前4~5月頃に行なう予定.

鉄鋼基礎共同研究会**微量元素部会**

第6回Nb分科会 開催日: 4月8日. 出席者: 金沢幹事, 他 15 名.

会議事項

1. 共同研究の事務会計検討
共同研究期間の9月30日までの延長の承認, 事務会計処理法について承認がなされた.
2. 共同研究成果の発表について
学振「微量元素協議会」と合同の中間発表会, 秋期講演大会の集団発表などの決定がなされた.

溶鋼溶滓部会

第3回運営委員会 開催日: 4月9日. 出席者: 斉藤部会長, 他 13 名.

会議事項

1. 分科会報告
第1分科会不破主査(欠席)に代り斉藤部会長が示差熱分析装置試作状況の報告を行なった. また第1分科会構成委員の検討が行なわれた.
第2分科会足立主査より昭和42年度共同研究実施法について報告説明された.
2. 昭和43年度共同研究予算の検討
拡散定数, 表面張力, 蒸気圧に焦点を合わせることを確認の後, 各ブロック連絡委員提出の研究装置予算の審議を行なったが, 次回再検討することになった.
3. Working group 討論会の具体化
10月21日東京にて開催することに決定された. 討論資料はオフセット印刷で行なうことになった.

第4回運営委員会 開催日: 5月10日. 出席者: 斉藤部会長, 他 18 名.

会議事項

1. 昭和43年度共同研究の検討
昭和44年度以降の研究方針の検討もなされ, 各ブロックより43年度, 拡散, 表面張力, 蒸気圧に関する研究計画書を5月末まで事務局に提出し, 斉藤部会長らの部会幹部および協会当局により最終決定を行なうことになった.
2. 共通試料に関する件
共通研究態勢を整えていくため共通試料の配布実施が提案され, 白石, 荻野委員により具体案を次回まで提出されることになった.
3. 共同研究会の運営について
会社委員より種々意見, 要望などが述べられ, 検討された.

新入会員氏名

(昭和42年3月1日~31日)

維持会員
 フェロアロイ工業(株)酒田工場1口
 住金液接棒(株) 3口
 正会員
 岩本 剛 (株)神戸製鋼所神戸
 小原 浩二 // //
 河地 紀英 // //
 高井 伝栄 // //
 高橋 宏幸 // //
 日吉 芳昭 // //
 井上 毅 // 中研
 柚鳥 善之 // //
 岩崎 正道 川崎製鉄(株)千葉
 菅田 恒治 // //
 吉田 浩 // //
 岸本 勝生 // 本社
 松本 藤一 // //
 神徳 顕 川崎製鉄(株)水島
 高橋 功 // //
 今宮 元隆 日本鋼管(株)川崎
 小指 軍夫 // 技研
 広瀬 猛 // 水江
 斎藤 正紀 // 福山
 奥田 宗秋 住友金属工業(株)小倉
 栗山 一夫 // //
 北川 善康 // 和歌山
 岡田 秀称 八幡製鉄(株)東研
 松塚 清人 // 技研
 早乙女和己 愛知製鋼(株)

立木 重信 // 知多工場
 大石 邦彦 日新製鋼(株)呉
 木村 敬吾 // //
 谷川 一明 日本磁力選鉱(株)
 広瀬 寿三 // //
 浮田 静雄 工学院大学
 田村 久義 // //
 笈沼 森一 三星金属工業(株)
 三宅 一生 川崎車輛(株)
 島津 敏郎 日曹金属(株)
 佐藤 紀男 山陽特殊製鋼(株)
 畠中 正男 東海鋼業(株)
 松井 禄郎 日本冶金工業(株)川崎
 安藤 孝 和田特殊製鋼(株)
 土井 明 神鋼鋼線鋼索(株)
 渡辺 幸治 日本特殊鋼(株)
 藤田 輝夫 日本ステンレス(株)
 安城 謙二 特殊製鋼(株)
 沢野 清 三菱電機(株)
 門馬 義雄 金属材料技術研究所
 石塚 貫生 日本金属工業(株)
 佐藤 公子 東京工業大学
 堀 一夫 熊本大学
 中村 幸吉 近畿大学
 中川 恵右 名古屋大学
 福島 達 関西大学
 渡辺 俊六 東北大学
 大槻 徹 京都大学
 相模原

鈴木 伸平 埼玉鑄造工業(株)
 学生会員
 太田 均 富山大学工学部
 加賀 光一 // //
 角沢 勝幸 // //
 笠間 昭夫 富山大学工学部
 大城 桂作 九州大学工学部大学院
 近藤 茂基 九州大学工学部
 重松 浩気 // //
 宮川 正康 // //
 山田 直臣 // //
 和気 誠 // //
 池田 克都 東北大学大学院
 工学研究科
 木原 建彦 // //
 尾山 元昭 東北大学工学部
 古川 忠男 京都大学工学部
 木村 次郎 // //
 石 滋宣 東京大学大学院
 伊藤 尚武 鉄鋼短期大学
 藤井 徹也 名古屋大学大学院
 吉川 建二 横浜国立大学工学部
 外国会員
 Giovanni Odone (Italy)
 João Augusto (Brazil)
 Caldeira
 Pierre HOUZEAU (Belgique)
 de LEHAIE
 全 善 漢 (大韓民国)